



建学の精神

横須賀学院は、キリスト教の内容と実践を目指す合言葉として、当初(3S)を掲げていました。
キリスト教信仰に基づく神への信頼、賛美の sing：歌う
隣人への温かく和やかな受容、思いやりの smile：微笑む
そして神と人への奉仕 service：礼拝・奉仕する

やがて生徒数の増大や新しい教職員の着任などから、教育目標を明確に言い表わす必要が生じ、創立 10 周年を機に、
基本精神として「敬神・愛人」
生活目標として「誠実・努力・奉仕」
が設定されました。



横須賀学院 校章・マーク
復活や純粋を意味する花「白百合」に、横須賀の頭文字「Y」
を組み合わせたものです。

学校法人 横須賀学院

〒231-8662 神奈川県横浜市中区山手町212

TEL：045-641-3785 FAX：045-641-9188



創立

横須賀学院の歴史は、戦後の混乱の時代に始まります。旧・日本帝国海軍最大の基地港だった横須賀は、その象徴ともいえる場所でした。市民生活の基盤が崩れ、物質的にも精神的にも荒廃していたこの地に、平和と民主主義を創造する学校教育が求められたのは必然ともいえます。

それには駐留軍（連合国軍最高司令官総司令部：通称 GHQ）だったアメリカ軍の働きかけもありました。日本人の軍国主義を払拭させ、民主主義を進めるべく教育施設の整備に乗り出していたからです。田浦の栄光学園や稲岡の清泉女学院など、カトリック系のキリスト教主義学校を設立したのもその一環でした。

その後、横須賀基地の海軍司令官 デッカーの提案により、旧・海軍工機学校跡が日本に返還され、プロテスタント系の学校がつけられることになり、1947年(昭和 22)青山学院大学横須賀分校が、翌年には第二高等部が併設されました。

しかし、東京にある本校の戦後復興に全力を注ぐことになり、わずか2年で大学工学部は関東学院に移管され、高等部の引き継ぎが未定のまま、分校が閉鎖されてしまいます。

これを知ったデッカー司令官が「10年経って再びこの地に来たときに、この軍港が民主的で平和な都市になっている姿を是非見たい。そのために私も全力を尽くすつもりです。青山学院が分校を廃止した後を、あなたが引き継いでやる気はありませんか」と日本のキリスト者に学校の設立を呼びかけ、文部省、神奈川県にも働きかけたのです。これに呼応したのが、鎌倉雪の下教会の松尾造酒蔵牧師でした。周囲の誰もが反対する中、日本基督教団議長であった小崎道雄牧師の励ましが決心を促しました。武部啓、日野原善輔牧師が中心となり、白山源三郎、安井正男、宣教師の R・ハーカー、H・ドラモンドが加わり、横須賀学院創設が決定されました。

学校設立への道のりは決して平坦ではありませんでしたが、地域の人々の信念と熱意が原動力となり、1950年(昭和 25)横須賀学院が創立されました。

創立の背景と歴史

校地と校舎は、法人が所有していなければ設立許可が下りません。しかし当時、大蔵省の管轄になっており、頼みの綱の宣教師団も戦争で打撃を受けた既存校の再興で手一杯のため、新しい学校を援助する余力などありませんでした。無い無い尽くしのこの計画は、無謀なものとして誰もが反対しましたが、地元の支援も得て、開校にこぎ着けました。

横須賀学院の初代理事長には小崎道雄、初代院長には武部啓が就任しました。松尾に武部を引き合わせたのは、田園調布平安教会の日野原善輔牧師でした。青山学院再興局長 飯島剛二から、横須賀分校の閉鎖を聞いた日野原は、この話に大いに関心を寄せ、自身でアメリカ海軍と交渉し、自分の娘婿の武部を松尾に引き合わせたのです。

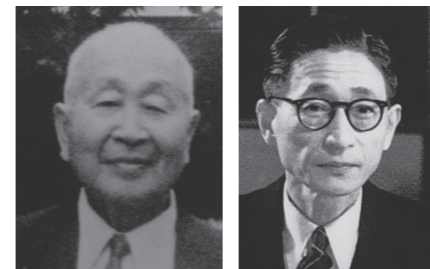
武部は当時まだ 30 歳代で、東京大学理学部の講師を務めていましたが、戦時中、朝鮮(当時)で教育事業に携わっていたことから、日本の再建のために青少年のキリスト教教育に専心したいと考えていました。全国から情熱と信仰心にあふれる 21 人が参集。みな薄給を覚悟の上でした。その中には、長年勤めた天文台の仕事を捨てて参加した水野良平、伝道の場として宗教主任に赴任した米村義雄もいました。一人ひとりが署名捺印して、一同で感謝の祈りをともし、深い感動を共有しました。連合国軍が駐留した国では異例の措置といえ、武部は「横須賀学院に奇跡が起きた」と、その喜びを表現したといえます。

教師や職員だけでなく、横須賀市民や父兄による多大な支援もありました。開校と同時に発足した P T A〈白浜会〉は、学院の要望に応じてさまざまな活動を実施。まったくの無報酬で校舎内の清掃や校具の修理などに取り組むなど、協力を惜しみませんでした。アメリカの宣教師ハーカーは、自ら鋤を振るって文字通り道を切り拓きましたが、そこは〈ハーカー・ロード〉と名づけられましたし、キリスト教青年会(YMCA)の生徒が中心となって行なわれたワークキャンプでは、卒業生も母校を訪ねて勤労奉仕に休みの数日を捧げました。こうした良き伝統は今も父兄の間に引き継がれています。

ところで、横須賀学院には当初、建学の精神となる言葉がありませんでした。その代わり、学校創立後しばらくして、武部院長が〈3S〉という標語を唱えるようになります。それは「sing：歌う」「smile：微笑む」「service：礼拝・奉仕する」の三つの英語の頭文字を意味していました。生徒たちの間にも浸透し、生活目標として定着していったのですが、明確な教育理念は掲げていませんでした。

しかし時間が経つにつれ、創立当初のようにキリスト教を初めから理解し、キリスト教教育に積極的に賛同して着任する教師ばかりではなくなっていました。建学精神である、キリスト教とその教育目標を明確に言い表わす言葉が必要となってきたのです。

そこで、創立 10 周年が過ぎたころ、教育理念の必要性を痛感していた当時の宗教主任会が、なるべく短く集約された言葉で教育目標を掲げようと草案づくりに着手。約 1 年をかけて協議し、1961年(昭和 36)基本精神に「敬神・愛人」、生活目標に「誠実・努力・奉仕」が定められました。



三校祖 左から、
初代理事長 小崎道雄 (1888～1973年)
初代院長 武部 啓 (1910～2004年)
第 2 代理事長 松尾造酒蔵 (1890～1985年)

